

神話伝説の山里

# 「高千穂郷」通信

平成20年2月号

(宮崎県西臼杵支庁)

NO.62

## 日之影町でチーム宮崎「膝づめトーク」開催



フォレストピアブロックの5町村長が参加して行われたチーム宮崎「膝づめトーク」

知事と市町村長が本音で語り合う、チーム宮崎「膝づめトーク」が2月18日に日之影町中央研修館で開催されました。東国原知事が、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村の5町村長と地域が抱える問題について意見を交わしました。

3つのテーマで意見交換が行われ、まず、最初のテーマ「教育問題について」では、津隈日之影町長が「複式学級がある学校への教職員の加配」を要望し、内倉高千穂町長は、小中学校の統廃合など地域の現状を説明しました。

東国原知事は、教職員の加配は財政的に難しいと説明。正職員でなくてもいいという津隈日之影町長に対しては、前向きな返事は難しいかもしれないとしながらも、今後の検討課題としました。

第2のテーマ「情報インフラの整備等住環境の格差是正等について」では、飯干五ヶ瀬町長が、中山間地の一部は地上デジタル放送が受信できないとされている問題について、国の責任で漏れなく対処するように県としても訴えるよう要請しました。地上デジタル放送については、内倉高千穂町長や津隈日之影町長も各町の状況を訴え、津隈日之影町長はアナログ放送の終了時期の延長して欲しいとの意見を述べました。

第3のテーマ「集落機能の維持について」では、各町村長が、社会的共同生活の困難な集落が発生しつつあるとして、集落が無くなると農地や森林の手入れをする人がいなくなり、災害が多くなるなど、現状を訴えました。

これに対し、東国原知事は、「問題意識は共有している。現在は状況調査をしているところである。最終的には都市と交流してもらうことしかないと考えている。そのために何をやるかということ。」との考えを示しました。

# みやざきグリーン・ツーリズムネットワーク交流会

2月7日～8日に高千穂町岩戸の「神楽の館」で、県内各地から約60名が参加して『みやざきグリーン・ツーリズムネットワーク交流会』が開催されました。この交流会は、都市と農山漁村の交流活動を行っている実践者が集まり、個々の能力向上や情報交換を図るため、年に3回県内各地で開催されています。

交流会では、静岡で活動されている伊豆グリーン・ツーリズム協会の鈴木達志さんが「発見と驚きの旅！ほんもの自然体験のすすめ！」と題して取組事例を紹介されたほか、地元の五ヶ村村おこしグループ代表の工藤正任さんがこれまでの取組活動を報告されました。



鈴木氏による講演



五ヶ村村おこしグループの活動報告

この他にも、1日目は神楽鑑賞・体験や農家でのホームステイ、2日目は五ヶ村を巡るウォーキング・ツアーや神楽料理づくりを行うなど盛りだくさんの内容で、参加者は地元の温かいおもてなしや五ヶ村ならではの体験に大変満足されていました。



参加者による神楽体験（七貴神）



五ヶ村ウォーキング・ツアー

# 中山間地域等直接支払制度集落協定代表者研修会

1月31日、高千穂町自然休養村管理センターで集落協定代表者を対象とした研修会が行われました。

中山間地域等直接支払制度は、中山間地域で農業を続けることにより農地を保全し、洪水の防止や美しい景観の提供などの多面的機能を守っていくことを目的に、平成12年度から実施されています。（西臼杵地域では165の集落で取り組まれています。）

研修会では、鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長の豊重哲郎氏による講演と、高千穂町中川登集落の田崎仁志さん、日之影町深角集落の甲斐憲市さん、五ヶ瀬町黒板集落の甲斐進さんからそれぞれ事例発表がありました。



集落協定代表者約300人が参加

## 「旬の活動で己に感動、地域に貢献」

豊重哲郎氏

柳谷集落（約120戸）は、自分達の集落のことは自分達でやるという行政に頼りすぎない住民総参加の手づくり活動を行っている。「からいも」の栽培や加工品の販売等様々な活動で自主財源を確保しており、その財源を使って青少年教育や福祉、環境整備を進めている。

また、「集落の活力源は人！」として、地域の和を大切にしたいむらづくりを行っている。「人は命令形で動かしたらそれで終わりだが、感動を与えれば感謝で動く。これをやるためにリーダーが不可欠である。」と話されました。



## 西臼杵観光振興プロジェクト モニターツアー開催

西臼杵3町が国の支援を受けて取り組んでいる「西臼杵観光振興プロジェクト」の一環として、2月9日～11日に「エコ&スローライフ体験モニターツアー」in 高千穂が開催されました。

このモニターツアーは西臼杵観光振興プロジェクトの大きな柱となっている中山間地域の経済活性化に向けた「3町内を回るデマンド型乗合タクシーの運行」や「地域資源を活かしたモデルツアーの実施」の実証実験として行われたものです。

県外から8組17名が参加し、天岩戸神社・天安河原散策、高千穂峡見学、神楽歴史散策、夜神楽見学などを楽しみました。また、地元の方々との交流を通じて、より深く高千穂町の魅力を知ることができたと大変好評でした。

モニターツアーを通じて、参加者からいろいろな意見をいただきました。いただいた意見は、観光振興を図り、地域雇用の創出を図るために役立てられます。



夜神楽を見学（高千穂町上田原）



天岩戸神社、天安河原を散策



神楽の館（高千穂町五ヶ村）での夕食



天の岩戸神楽発祥の地と伝えられる日差尾(ひさお)で記念撮影



えりものつくりを体験



神楽面とニッコリ記念撮影



完熟きんかんについての説明を聞く参加者

## 祝！ JA高千穂地区が 畜産大賞地域振興部門で日本一

(社)中央畜産会主催による平成19年度畜産大賞において、JA高千穂地区畜産部が『山間地域における肉用牛増頭の取組 - 山間地という悪条件を克服し、地域ぐるみの力が生んだ「6,500頭」 - 』という内容で、地域振興部門の日本一となる最優秀賞を受賞しました。

表彰式に際し審査委員長から「JAを中心に、組織の枠を超え地域一体となって連携し、企画・立案・指導・推進の手法として学ぶべきものは大きい」と称賛されました。

西臼杵は昨年の第9回全国和牛能力共進会においても日本一に輝いておりますが、今回の受賞で高千穂牛の名がさらに全国にとどろきました。

### 平成19年度 畜産大賞業績発表・表彰

(社)中央畜産会 後援/農林水産省 日本中央競馬会 (財)全国競馬畜産



畜産大賞業績発表・表彰式（2月4日、東京都）

## 黑板むらづくりの会（五ヶ瀬町）が むらづくりコンクールで優秀賞受賞

2月13日に、県企業局県電ホールで県のむらづくりコンクールの表彰式が行われ、黑板むらづくりの会（五ヶ瀬町）が優秀賞を受賞しました。

むらづくりコンクールは、むらづくり活動の模範となる優良事例を表彰・紹介することにより農林漁業を基盤とした豊かな地域社会づくりの推進を図ることを目的に、平成14年度から開催されています。

黑板集落では、「黑板村」という1つの村にみだた独自の組織をつくり、集落の連帯意識を深めています。また、集落の全員が参加して開かれる「黑板村感謝祭」は、村人が一体感を味わう場であるとともに、集落の70才以上の方を対象にそれぞれの特技にあった名人表彰を行うことで、むらの知恵や技を再認識する機会にもなっています。

このような、集落の全員を対象に、大切にしている心暖かい取り組みが評価され、優秀賞に選ばれました。



受賞者及び審査員の記念撮影

## 西臼杵地区林野火災防止パレードの開催

県では、今年も林野火災予防運動（1月30日～2月5日）の一環として、2月1日に宮崎北部森林管理署、西臼杵3町、森林組合、西臼杵支庁の職員17名（車12台）により3町に分かれてパレードを行い、林野火災の防止を呼びかけました。

最近、小規模の火災が発生しています。皆様の貴重な財産が失われないよう、引き続き林野火災防止について、御協力をお願いいたします。



パレード出発式の様子

## 第23回神話の高千穂建国まつり

第23回神話の高千穂建国まつりが2月11日に高千穂町市街で行われました。

同祭は、建国記念の日に毎年開催されているもので、神様の衣装を身にまとった約500人が高千穂神社からくしふる神社までの約1.5kmを練り歩きました。

沿道には多くの見物客が訪れ、楽しみました。

また、パレードの後には、ダンスの披露や約1,500人分のだご汁の振る舞いなどの催しもありました。



パレードに参加した西臼杵支庁職員

### 編集後記

今月は、「膝づめトーク」、「エコ&スローライフ体験モニターツアー」、「グリーン・ツーリズムネットワーク交流会」が開催されるなど、盛りだくさんの行事がありました。高千穂郷では、住民一体となった地域づくりが行われています。当地区の観光客が確実に増えているそうです。このブームが一過性で終わることなく、高止まりできるために何をしますか。高千穂郷で感じることは、とにかく地元のために何とかしたいと住民の皆さんが元気だということ。この調子で頑張りましょう。 博

\* 西臼杵支庁の業務等について、ご意見、ご要望などありましたら下記までご連絡ください。

### お問い合わせ先

宮崎県 西臼杵支庁 総務課  
TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760  
URL [http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/shityoson/nishiusuki\\_shityo/index.html](http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/shityoson/nishiusuki_shityo/index.html)

100 古紙配合率100%、白色度82%を使用しています。

## 日之影町河野一郎さん

### 宮崎日日新聞農業技術賞を受賞

日之影町でホオズキ生産を行っている河野一郎さんが1月25日に第50回宮崎日日新聞農業技術賞を受賞されました。ハウスで栽培するという概念すらなかった40年前にホオズキ生産に着手し、長年にわたり西臼杵地区の生産方式の確立に貢献されてきました。今や本地区は県内屈指の産地となり、高齢者でも取り組める高収益な品目として年々作付面積が増加しています。

河野さんはJ A高千穂地区のホオズキ研究会の会長も務めており、培った知識を惜しむことなく提供する姿勢や誰とでも分け隔てなく接する人柄は人望も厚く、多くの方々から祝福される今回の受賞となりました。



支庁長への報告の様子（河野一郎氏は左から2番目）

## 完熟きんかん『たまたま』の支庁長贈呈

2月13日に、J A高千穂地区きんかん部会より、高島支庁長へ「完熟きんかん『たまたま』」の贈呈がありました。

西臼杵地域の「完熟きんかん」は、高千穂町、日之影町で23戸、4.1haの栽培が行われ、みやざき商品ブランドの産地認定を受けています。

当地区の寒暖のある気候で育った「完熟きんかん」は、とても美味しく、知事のPR効果もあり今年には特に高値で取引されています。

管内では、1月18日から出荷が始まり、3月までに65t、5,200万円の販売額を目標に出荷が行われています。



贈呈の様子（中央が佐藤智明部会長、右が後藤邦治副部会長）